

チリ共和国
環境センタープロジェクト
終了時評価報告書

平成11年12月

国際協力事業団
社会開発協力部

序 文

チリ共和国では、産業・経済の発展とサンチアゴ首都圏への人口集中に伴って、大気汚染、水質汚濁、廃棄物等の公害問題が顕在化し、自然環境の破壊も進行して、環境問題に積極的に取り組む必要が出てきた。このためチリ国政府は、環境問題の調査研究、情報提供、人材育成、環境影響評価等を行う環境センターの設立を計画し、1992年にわが国にプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

これを受けて国際協力事業団（JICA）は各種調査を重ねたうえ、1995年1月に実施協議調査団を派遣して討議議事録（R/D）の署名を取り交わし、同年6月から5年間にわたる技術協力を開始した。

今般、プロジェクト終了が半年後に迫ったため、1999年11月1日から同13日まで、国際協力事業団国際協力専門員、田中研一氏を団長とする終了時評価調査団を現地に派遣し、チリ側評価チームと合同でプロジェクト活動の最終評価を行った。その結果、プロジェクトはある程度の達成はみたものの、建物・施設の建設が遅れたことから、当初目標の達成には到っているとは言えず、このため同調査団は、2年程度の協力延長を前向きに検討するよう提案した。

本報告書は、同調査団の評価・協議結果を取りまとめたもので、今後の展開のために広く活用されることを願うものである。

ここに、調査にご協力いただいた外務省、環境庁、気象庁、厚生省、大阪市、在チリ日本大使館など、内外関係各機関の方々に深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願い申し上げる次第である。

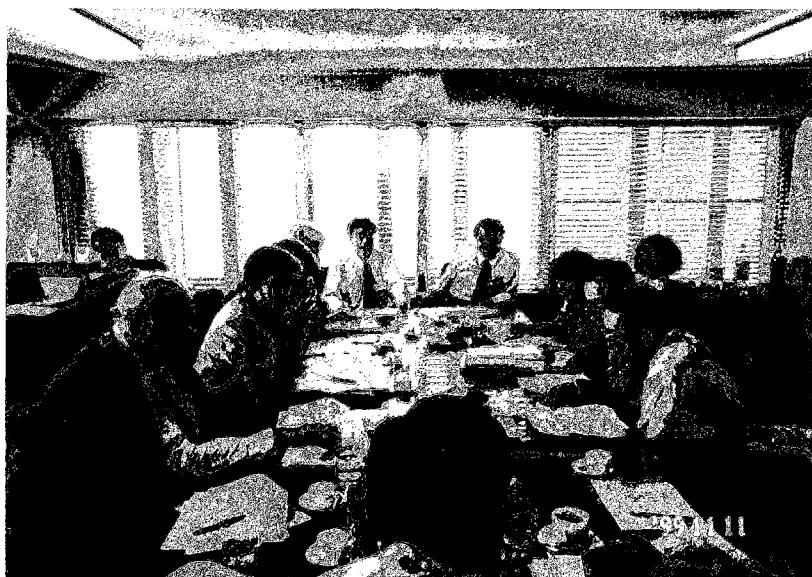
平成11年12月

国際協力事業団
理事 泉 堅 二 郎

合同評価報告ミニッツの署名
於 CONAMA :
(CENMA、CONAMA、チリ大学国際
協力庁及び調査団団長の5者)



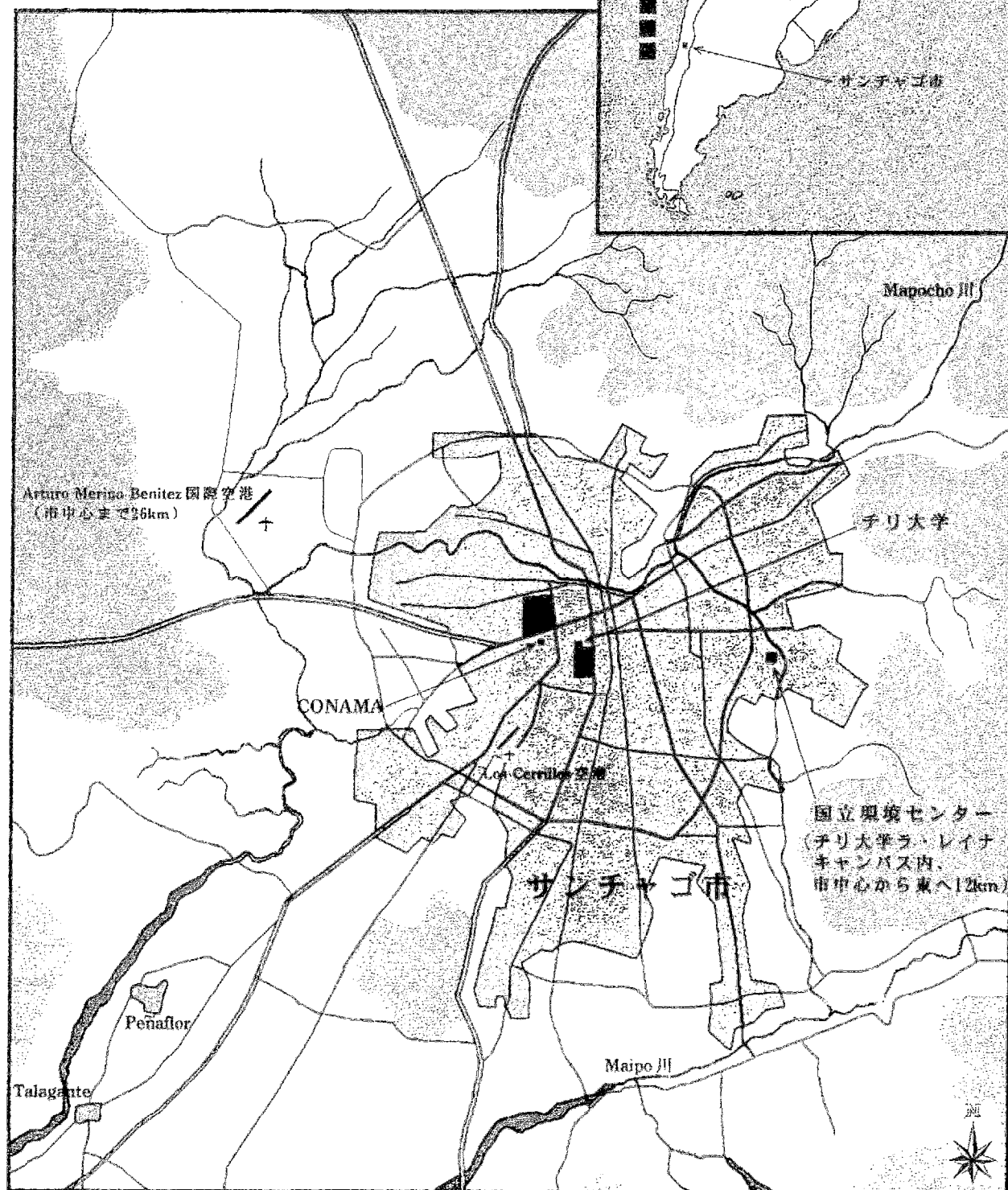
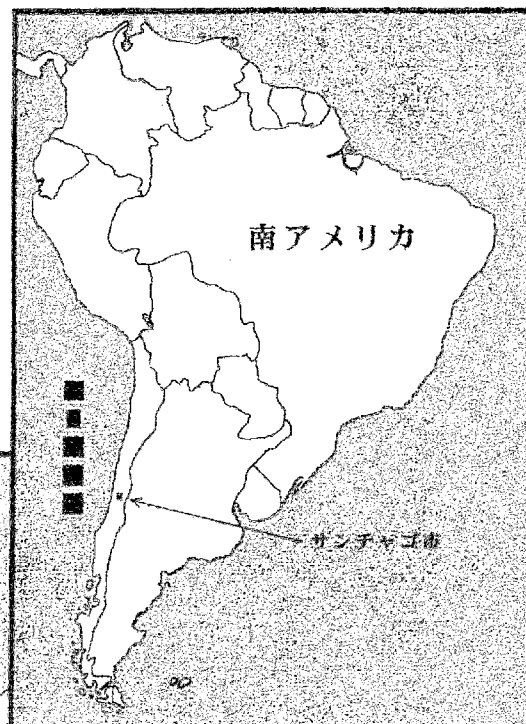
日本側及びチリ側評価チーム
によるミニッツ協議
(於チリ大学)



日本人専門家も含めた
ミニッツ協議
(於CENMA)



チリ国環境センター プロジェクト



目 次

序 文

写 真

地 図

1．終了時評価調査団の派遣	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	3
1 - 4 主要面談者	4
1 - 5 評価の方法	5
2．要約	6
3．協議の経緯	9
4．評価結果	12
4 - 1 分野別の現状と計画達成度	12
4 - 1 - 1 大気汚染気象予測分野	12
4 - 1 - 2 産業廃水・水質管理分野	16
4 - 1 - 3 産業廃棄物管理分野	18
4 - 1 - 4 大気汚染管理分野	23
4 - 1 - 5 環境情報並びに環境研修	27
4 - 2 5項目評価	30
4 - 2 - 1 目標達成度	30
4 - 2 - 2 効果	30
4 - 2 - 3 実施の効率性	30
4 - 2 - 4 計画の妥当性	32
4 - 2 - 5 自立発展性の見通し	32
5．結論	33
5 - 1 教訓と提言	33

5 - 2 今後の協力のあり方について	34
付属資料	37
1 . ミニッツ（合同評価報告書）	39
2 . カウンターパートへの質問票回答集計結果	71
3 . CONAMA関係者およびセンター所長の質問票回答	85